

あさがおをかんさつして、かこう

中心学習材「おおきくなった」（光村図書1年）

日時：令和5年6月29日（木）2校時

授業者：矢 吹 哲 郎

児童：1年1組 25名

1 単元の構想

（1）児童の実態

- ・ほとんどの児童が、ひらがなを読める。書くことについては、未定着な児童が複数見られる。
- ・話すことに意欲的な児童が多いが、書くことについては、ひらがなの定着の様子とも関連し、それほど意欲は高い児童がいる。
- ・生活科のあさがおを育てながら、生長の様々な変化を楽しむ様子が見られる。

（2）国語科の目標

〈学習の系統性〉

- ・1年「ぶんをつくろう」
「～が～（する）。」
- ・1年「ねことねっこ」
「～は、～（です）。」
- ・1年「おばさんとおばあさん」

〈重点指導事項〉

- 〔知〕身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。
（（1）オ）
- 〔思〕「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。（B（1）ア）
- 〔学〕植物を様々な観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。

〈学習の系統性〉

- ・1年「すきなものの、なめに」
すきなものとその理由を二文で書く。

（3）教材の特性と主となる言語活動

①教材の特性

この教材の主なねらいは、観察を通して、書くことを見付けたり、それに必要な事柄を集めたり、記録する簡単な文を書いたりする力を育てることである。

生活科で育てているあさがおは、「種」「葉」「蔓」「つぼみ」「花」など観察の対象を焦点化でき、それらの「色」「形」「大きさ」など観察の観点も明確化しやすい。また、児童にとって、生長の変化への気づきが記述の対象となり、そこから観察の観点を自ら見いだしやすい特徴をもつ。

②主たる言語活動「あさがおを観察し、観点を明確にした文を書く活動」

あさがおを観察し、書くことの内容を見いだしたり、「～が～（する）。」「～は～（です）。」「～を～（する）。」の基本文型を応用して観察の観点を主語にした文や、観点到に沿った短い言葉で書いたりする。

（4）本研究主題達成のための手立て

①よりよく獲得させたい国語科固有の資質・能力

観察したことから、書くことを見付ける力。

②学びを推進する力

〈表現する力〉

- ・焦点化した朝顔の掲示から、気付いたことを表現する力。

〈論理的に思考する力〉

- ・二つの作例を比較し、共通点、相違点を考える力。
- ・観察する対象を明確にし、観点をみだし、それに沿って書く力。

③具体的方策

（第1時）

あさがお探偵になるという設定で、観察する朝顔を焦点化して提示し、気付いたことを表現し合う中で、観察の観点を整理していく。

（第3時）※本時

- ・同内容で記録の書き方が異なる作例を提示し、共通点、相違点を話し合うことで観察カードの書き方について確認する。
- ・書く対象を焦点化し、観点を明確にした上で観察する。

2 単元の学習計画

(1) 単元の評価規準

〔知〕 身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。((1) オ)

〔思〕 「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。
(B (1) ア)

〔学〕 植物を様々な観点から積極的に観察し、これまでの学習をいかして観察したことを記録しようとしている。

(2) 指導と評価の計画 (4時間)

次	時	○学習活動・学習内容	指導上の留意点 〈主に発揮させる「学びを推進する力」〉	評価規準 評価方法等
一	1	○生活科で育てているあさがおの様子を想起する。 ○観察したことを記録するよさについて考える。 ○観察カードについて知る。 ○あさがお探偵になって、葉に焦点化し、気付いたことを発表し合う中で、観察の観点について整理する。	・数枚の観察記録（絵のみ）を提示し、記録することのよさを考えさせる。 ・観察記録の見本を提示し、書く内容について知るようにする。 ・あさがお探偵になって、観察する対象を葉に焦点化し、詳しく観察し発表し合う中で、観察の観点について、整理していく。 ・児童から出されなかった観点は、教科書 p. 66 の例をもとに示す。 〈表現する力〉	
二	2	○観察する観点を確認し、これまで描いてためてきた絵に、「―が―（する）。」「―は―（どんな）です。」の文型を応用し、観察カードを書く。	・「―が―（する）。」「―は―（どんな）です。」の基本文型については、日常的に指導を積み重ねる。 〈論理的に思考する力〉	[思考・判断・表現] <u>観察・観察日記</u> ・観察の観点をもとに、「―が―（する）。」「―は―（どんな）だ。」の基本文型で書いているかの確認。
	3 本時	○教科書 pp. 66－67 の二つの作例について、共通点・相違点を出し合い、観察カードの書き方を知る。 ○観察する対象を明確にした上で、「大きさ」「色」「形」など観点を出し合い、記録する。	・二つの作例を比較し、共通点と相違点を明らかにし、観察カードの書き方の理解を深める。 ・着目する部分を明確にした上で、「大きさ」「色」「形」など観点を考える。 〈論理的に思考する力〉	[思考・判断・表現] <u>発表・観察日記</u> ・着目する部分をもとに「数」「形」「色」など観点をみいだしているかの確認。
三	4	○二つの作例の書き方を復習した上で、どちらか一方を選択し、観察カードを書く。 ○書いたものを友達と交流する。 ○学習を振り返る。	・観察において、二つの作例のうちどちらの書き方で書いていくのかを選択させ、書くようにする。 〈自己決定する力〉 ・観察日記を相互に読み合い、二つの書き方の違いや様々な観点について理解を深める。	[学びに向かう力、人間性等] <u>観察・観察日記</u> ・自分が選択した書き方で、これまでの学習を生かしながら、観察日記を書いているかの確認。

3 本時の指導（3/4時）

（1）ねらい

観察記録の二つの作例を比較したり、共通のあさがおを観察したりして、観察する部分を決め、観点を見いだすことができる。

（2）展開

学習活動・学習内容（◎主発問）	指導の手立て 〈主に発揮させる「学びを推進する力」〉（※評価）
1 本時の学習の流れを確認する。 2 二つの作例を比較し、共通点と相違点を出し合う。 それぞれの書き方に名前をつける。 ・二つの観察記録の書き方で、同じところはどこですか。 ・二つの観察記録の書き方で、違うところはどこですか。 3 学習課題を設定する。 みじかい ぶんの かんさつかあどを かこう。	・本時の学習の展開を示し、見通しをもてるようにする。 ・児童に示す観察日記は、教科書 p. 67 で示されている作例を教科書 p. 66 のように加工し、示すこととする。 ・二つの作例を比較し、共通点や相違点を考える。 〈論理的に思考する力〉 ※書き方の共通点や相違点を考え、観察カードの書き方の理解を深める。（発言） ・それぞれの書き方の特徴から、課題につなげる。
4 観察する部分と観点を確認する。 （1）観察カードをもとに、観察カードの書き方を確認する。 （2）あさがおの着目する部分を確認する。 ・あさがおのどの部分を観察しますか。 （3）観察の観点を確認する。 ・観察探偵になって、何について詳しく観察できそうですか。	・導入で示した作例をもとに、一枚の観察カードには、対象とした一つの部分から観点を設けて観察していることを確認する。 ・観察の対象となるあさがおは、全員共通のものとする。 ・生長の様子から、着目する部分を確認する。 ・前時までに整理した観点の中から選ぶようにする。 ・あさがおの観察する部分を焦点化し、そこから観察する観点を見いだす。 〈論理的に思考する力〉
5 観点に沿って、あさがおを観察する。 ・観察カードを、書いていきましょう。 つぼみ が できた かず ふたつ かたち とがっている いろ さきがすこし あかい はなが さいた かず みつつ かたち まる いろ むらさき	・観察日記の書く場所を確認する。 ・絵については、生活科の時間に描くことを確認する。 ※観察の観点について、書いている。（観察カード）
6 書いた観察カードを紹介する。 ・観察カードを見てみましょう。	

